

Building lifestyle around Ferrari

サラブレッドは"純粋なV12"を搭載

前号の当コラムは『さらば愛しき"自然吸気"V12(仮)』というタイトルだったが、気が早かったのかもしれない。自然吸気かは不明ながら、V12は終わってなかったのだ。



フェラーリ初となるSUV (FUVとも呼ばれる)の『プロサングエ』という車名は、だいぶ前から明らかにされていたものだ。これは"サラブレッド"を意味するイタリア語となるが、噂も含めて事前に聞いている車名がそのまま採用されたことなどほとんどないフェラーリであるから、今回もあてにはしていない。ところが、締め切り直前となる6月16日にマラネッロで開催された主に投資家向けとなるイベント『フェラーリ・キャピタル・マーケット・デイ 2022』をオンラインで見えて、ちょっと気になったことがあった。

それは既にティザーで発表されている正面画像の左上にちゃんと『PUROSANGUE』と書かれていたこと、そして2018年からここ5年で15台を発表したことを振り返るプレゼン画像の中で、スポーツ、グランツーリスモ、スペシャルシリーズ、イーコナ、トラックカーズという"カテゴリー名"の位置に、プロサングエとあったことだ。もしかしたら、フェラーリSUVをプロサングエ・シリーズと呼び、9月を予定する新型車には、別の車名が与えられるのではないか……という予想がたつのだ。

そして注目はパワートレインで、何と、純粋なV型12気筒！だった。ご丁寧に"Pure V12"と書かれていたので間違いない。勝手にV8のハイブリッドあたりを想像していたので驚いたの

だが、さらに聴くと、フェラーリの今後のパワートレイン戦略はICE (エンジン) がV6、8、12、ハイブリッドがV6、8で、これに2025年登場予定のフルEVが加わるそうだ。さらにF1と来年からエントリー予定のル・マン・ハイパーカーのテクノロジーをフィードバックした、V8の"スーパーカー"が登場予定とまで発表された。つまりはこれこそが、ラ フェラーリ以来となる"スペチアーレ"になる可能性が高い。ちなみに2030年には、約20%がICE、約40%がハイブリッド、約40%がフルEVという比率になることが目標に掲げられている。

Q&Aセッションも含めて3時間ほどのプレゼンの中で主役となった昨年就任したばかりのベネデット・ヴィーニャ CEO (写真左) は、2030年までのカーボンニュートラル実現など、我々が知りたい未来の情報よりはむしろ、投資家向けの企業姿勢、取り組みなどを懸命にアピールしていた。もちろん上場企業としては当たり前の話で、カリスマというよりは実務派という雰囲気ヴィーニャ CEOの手腕が問われることになる。

2022年という75周年の年に語られたフェラーリの未来。それが1970年代に多くのスーパーカー少年が夢見たものとはだいぶ違って見えるのは、書くのが恥ずかしくらい連呼されている"100年に一度の変革期"だからなのだろう。そんな今だからこそ、"ボクたちの"フェラーリ史を振り返りたい——。今号は512BBを主役とした、そんな特集となったのである。

